

大阪市廃止〓「都」構想〓百害あって一利なし〓

「協定書」を委員会可決

市議会 共産・市民、自民は反対



質問する統一会派「共産・市民」の武議員〓
31日、大阪市議会

大阪市を廃止・分割する「大阪都」構想の制度案である「協定書」議案が31日、大阪

市議会の財政総務委員会で、維新の会と公明党の賛成多数で可決されました。統一会派「日本共産党・市民」とつながる・くらしが第一大阪市民議団と自民党は反対しました。

委員会では、統一会派「共産・市民」の武直樹議員（無所属）が

質疑。コロナ禍による経済状況の悪化や税収減、支出増などが反映されていない「財政シミュレーション」について、「市民に大阪市を廃止する極めて重要な判断を迫るなら、相応の判断材料になるように作り直すべきだ」と要望。コロナ禍の中

住民参加の担保という究極の民主主義の根幹を無視して、そして、何より市民のくらしや命より優先して、「都」構想の「住民投票を急いでしてしまうことには理解できない」と強調し、反対しました。

「正確な情報の開示と」

阪市を廃止して四つの「特別区」に分割することの是非を問う住民投票を大阪市で11月1日に実施しようとして

投票を大阪市で11月1日に行います。

維新の会は、協定書議案を3日の大阪市議会本会議で議決し、大